



第59回日本体力医学会大会(埼玉)を終えて

大会長 加賀谷 熙 彦

埼玉短期大学 学長

埼玉大学 名誉教授

第59回日本体力医学会大会は、「とどけ この夢 この歓声」をスローガンとして挙行された彩の国まごころ国体の関連行事として、平成16年9月14日から16日の3日間の日程で開催され、予定通り無事に終えることができました。開催に当り、埼玉県知事・さいたま市長・埼玉県教育委員会教育長・埼玉県医師会長をはじめ埼玉の多くの関係者に多大なご後援をたわまったことに、この場を借りて、心からお礼を申し上げます。また、本学会の馬詰理事長をはじめ理事の皆様の適切な指示を頂いたこと、前々回(第57回)、前回(第58回)大会を開催された高知、静岡の大会事務局の関係者の皆様から大会運営について様々な留意点をお示し頂きましたことにも感謝申し上げます。さらに、多くの賛助団体や関連企業会社から頂いたご協力にも厚くお礼申し上げます。

日本体力医学会は体力ならびにスポーツ医学に関する研究の発展・充実を促進し、さらに、その成果の実際的应用を図る目的で戦後間もない昭和24(1949)年に設立され、その学術大会は国民体育大会の関連行事として開催地で行われることになっています。埼玉県での両大会の開催は、昭和42(1967)年の第21回以来の2回目になります。第21回学会大会は当時としては埼玉県で最も大きな会場であった埼玉会館で開催され、私は大学院生で参加したことを覚えております。その後、私は昭和46(1971)年に埼玉大学教育学部に勤務することになり、また、埼玉県も大きな変容を遂げて、平成15(2003)年には政令指定都市としての「さいたま市」が誕生しています。このような背景をもとに、今回の学会大会の会場はさいたま新都心の交通の要衝である大宮駅に至近の大宮ソニックシティとしました。

一方、本学会に関わる体力・健康問題の研究にも目覚しい進展が見られ、また、これに伴う新しい課題も生まれています。すでに本大会予行集の会長挨拶で述べましたが、日本学術会議第7部体力科学研究連絡委員会(委員長：下光輝一教授)は、平成15年7月15日に、「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」を公にしています。その内容については、予稿集との重複を避けますが、それは、新たに開始された国民健康づくり運動「健康日本21」の充実に向けたものであり、本学会の今後の研究活動の指針ともなる重要な報告書であり、今回の大会でも関連する報告が多く見られ、会場では活発な論議が展開されました。

本大会では、招待講演者としてワシントン大学の John Holloszy 教授をお招きし「健康増進、生活習慣病の予防に及ぼす運動の効果」をお話頂きました。また、東 晃先生(日本ボート協会副会長・東京都ボート協会会長)に特別講演として「子として見た父」を伺うことができました。本学会の創立、育成に多大な情熱を傾けられた東俊郎先生の若き日のご様子を知ることができ、多くの会員の皆様から素晴らしい企画であったとお褒め頂いたことは会長として光栄でありました。改めて、東 晃先生にお礼を申し上げます。

本大会では、上記の招待講演、特別講演の他に、大会長講演・市民公開講座(1題)・教育講演(7題)・シンポジウム(6題)・一般発表(573題)・日本体力医学会プロジェクト研究(1題)・国際セッション(4題)の発表がありました(以上：予稿集による)。

なお、今回はかねてから懸案の「若手奨励賞の授与式と受賞講演」を実現させることができました。授賞内容は、奨励賞7名、特別奨励賞1名、優秀奨励賞2名でした。受賞者の今後の研究生活の充実を期待すると共に、ご指導の先生方のご努力に敬意を表します。また、今回のこの行事に多大な後援を頂きました大塚製薬の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。また、各企業協賛のランチョンセミナーも6テーマについて開催され、多くの参加者を得ることができました。ご支援頂いた企業団体に厚くお礼申し上げます。

このような内容の大会に、多くの会員が熱心に参加され、最終日の大会終了予定時刻を迎えても多数の会員が会場を去らずに討議を続けるという盛会でありました。充実した大会の運営に当たってくれた実行委員会のスタッフに心から感謝いたします。

最後になりましたが、ご多忙の中、今大会の会長講演の司会をおつとめ頂いた次期第60回大会大会長の窪田 登先生(吉備国際大学学長)に厚くお礼申し上げますと共に、次期大会のご盛会をお祈りして、会長の大会報告とさせていただきます。